



猛暑、酷暑、炎暑の今年の夏が過ぎ、秋に異変？お彼岸にヒガンバナ（マンジュシャゲ）は見られず、数日遅れで土手や畦道に開花。また、仲秋の名月に欠かせないススキの穂も見られず、10月上～中旬にやっと登場。

さらに、熊や猿、イノシシの出没が相つぎ、奥山から里山、人里へ。ただ、高嶺の花のマツタケは、近年にない大豊作！！価格は例年の半値です。（でも、なかなか口に入りません）確かに自然界の様子が変化しています。

さて、各市町におかれましては、下半期に入り、充実した事業が展開されていることと推察いたします。当センターにおきましては、先日、専門研修『コミュニケーション・プログラム実践講座』（講師：長崎県こどもの城館長 池田 尚氏）が終了いたしました。その講座で、心に残ったことは、「人と人の関係は、ときと場を共に過ごし、同じ方向で一緒に活動（作業）をすると、不思議と親しみが湧き、いい関係ができること」を改めて実感いたしました。

最近よく耳にする「新しい公共」、そのキーワードはやはり「協働」かなと感じました。



研修報告 9、10月の研修の様子をお伝えします

専門研修 参加型学習実践講座

9月14～15日 於：邑南町 受講者27名

グループごとに、ワークショップの流れとシナリオを考え、練習を行った後、ファシリテーターとして前に立ちました。邑南町の方は、まさに十人十色。皆さん、個性あふれる素晴らしいファシリテーターぶりを発揮されました。



声 ◆ファシリテーターに対するイメージががらりと変わりました。これまでは、人前で話すことの難しさしか感じていませんでしたが、ファシリテーターは楽しみながらするものだと思うようになりました。

専門研修 コミュニケーション・プログラム実践講座

10月20日(水) 於：西部社会教育研修センター 受講者52名

講座テーマ：「コミュニケーション力を高め、地域活動に生かす！」

遊びや語り合いを通して人と関わる楽しさや大切さを学ぶ「コミュニケーション・プログラム」の体験。様々な視点から物事を捉え、ひとつひとつの活動の意味を考えていきました。途中、ギターの生演奏による歌の披露やマジックなども交えながら、自然に参加者の距離が縮まっていく内容でした。



長崎県諫早市子どもの城館長
池田 尚氏

声

- ◆最初は何をしたらよいのか不安一杯でしたが、ちょっとしたスキンシップで初対面の方にも心が開けたように思います。
- ◆人とのふれ合いや、明るい声かけで、気持ちがあほぐれていくことを実感しました。今日の研修を糧にして努力していきたいです。



親学プログラムが広まっています



PTA保護者会で...

これまで「親学プログラム」は、保育園を中心に実施していましたが、今年度に入ってから、小学校・中学校でも実施することができました。来年2月には、幼稚園での実施も決まっています。今後も各地の学校・園でも実施できるように普及に努めていきます。



【津宮小学校：保護者の声】

なかなか面と向かって先生と保護者が話す機会はありませんが、今日は誰もがとてもいい笑顔で話できていたと思います。すごく楽しかった！



【鎌手中学校：教職員の声】

保護者さんとのコミュニケーションが取れたように感じました。家庭・学校の連携という意識をお互いの立場から強く持てたと思います。

親学ファシリテーターが活躍しています

チームを組んで...

今年度から「親学ファシリテーター養成講座」がスタートしました。その第1回目が7月に終了し、11名のファシリテーターを養成しました。

この度、江津市と吉賀町からファシリテーターの派遣要請があり、早速修了生の皆さんに出かけていただきました。デビュー戦は不安もあったようですが、チームを組んで実施することで、安心感がもてたそうです。これからも、積極的に出向いていただき、家庭教育支援に尽力していただきたいと思います。

第2回目の養成講座は、12月です。新たに12名のファシリテーターが誕生する予定です。



吉賀町「子育て教室」



少年自然の家「子育てワークショップ」

【ファシリテーターの声】

初めてのファシリテーターの実践でしたが、事前に担当者とは何度か打ち合わせができたので、当日は流れがわかって進めやすかったです。ゆったりした時間の中で進めた方が、受講者もリラックスできるかもしれないと思いました。親学を広めるには、地道に紹介していくことだと思います。